



芝浦工業大学 学長
複合領域産学官民連携推進本部
本部長

村上 雅人

2014年度COC活動を振り返って

平成 25 年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」の目指すところは、教育の場を地域に求め、地域の課題を解決しうる素養のある人材を育成し、将来のイノベーターとして輩出することと捉えています。

本学の COC 事業の 2 年目は、まちづくりのプロジェクト、ものづくりのプロジェクトともに、地域団体・地元企業との交流や地域の施設活用等の活動を通して、課題の発見・分析・提案を行う PBL (Project Based Learning) のフローを定着させる 1 年であったと言えます。

通常の授業では出会う機会のない人々との交流やフィールドワークの場を用意し、教室ではイメージしにくい社会の様相を学生が自分の目で見て理解したり、これまで接点のなかったコミュニティの中で自分の考えを伝える工夫をしたり、様々な場面で学生が成長している姿を通して、この 1 年間の活動が有意義なものであったと自負しています。

次年度以降、この活動を継続的かつ全学的に普及・発展させる所存であります。

2014 年度の本学における COC 事業の取り組みにつきまして、各プロジェクトの活動概要含め、速報版としてまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

2014年度活動成果

これまでの成果

〈シラバス上での地域志向の明確化〉

- シラバス上に「地域志向ラベル」を新設し、地域志向授業科目・地域連携 PBL・地域志向研究論文のラベルを貼付し、地域志向科目を「見える」化(2014 年～)

〈プロジェクトによる地域志向教育・研究・社会貢献の実践〉

- 2013 年度：7 プロジェクト・参加教員 31 名
- 2014 年度：11 プロジェクト・参加教員 63 名

〈地域志向科目の履修促進〉

- モデル的な地域志向科目の必修化、既存必修科目の地域志向化を推進 (2014 年度は新たに 1 科目を必修化、2015 年度以降は基礎的な科目での地域志向化を推進予定)

	2013年度	2014年度
「地域」を科目名に明記した科目数	37科目	40科目
地域志向ラベル貼付科目数	—	142科目
地域企業への就職者数	833人	900人
知の公開(公開講座、セミナー等)	53件	63件
知の交流(イベント)	9回	12回

学内外・地域社会等への波及効果

- 学内においては、プロジェクト構成員の地域志向教育への意識付けにつながり、実践的な教育への取り組みが浸透した。
- 自治体と大学とのコミュニケーションの機会が増加し、相互の積極的な関与が顕著になった。
- 地元中小企業において、大学とのコラボを通して地域の活性化を図る意識が芽生えている。

プロジェクト参加者のメッセージ

さいたま市の社会課題を解決するパートナー

さいたま市長
清水 勇人



学生の皆様には、演習の中でさいたま市を歩き、コミュニティサイクルに乗って、地域の魅力と課題を感じていただいたと思います。また、北陸地方との連携課題には、新しい流通を実現するアイデアで取り組んでいただきました。

地域課題を技術やアイデアで解決することは非常に重要であり、本市はこのようなチャレンジを支援していきたいと思っています。本プログラムでの経験によって将来のイノベーション創出人材となり、グローバルに活躍することを期待しています。



学生にアドバイスをするさいたま市長

システムの思考を用いて新たな価値を創造

芝浦工業大学
大学院理工学研究科
システム理工学専攻
修士課程 1 年
最適システムデザイン研究室
伊藤 雄佑



「コミュニティサイクルに新しい価値を創る」という目標を持ち、新たな利用方法を考えました。

市役所の方や自転車事業者の方から現状や、アイデアのヒントをいただき、コンセプト立案から新たな利用方法に必要な実機の作成まで行いました。

コンセプト立案からモノを創るまでのプロセスは非常に有益な経験となったと感じています。また、市役所での発表では新しい考え方を伝えられたと感じています。



授業風景